

平成25年度 学校評価実施報告書(後期)

京都市立旭丘中学校

自己評価 【 評価日 : 平成26年2月26日

評価者・組織(名称) : 運営委員会(学校評価委員会) 】

	分野	評価項目	評価指標	分析(成果と課題)	改善策
1	確かな学力	わかる授業の創造 個に応じた授業の実施 家庭学習の確立 コミュニケーション能力の育成	わかる授業、1人ひとりを大切に学習指導の実施(生徒・保護者アンケート調査)..... 1年で国語のTT、2年で数学の少人数授業、3年で英語の少人数授業の実施..... 家庭における計画的な学習の習慣化(生徒アンケート調査)..... 感想文・説明文が書ける、自分の考えを説明できる(生徒アンケート調査)	前期生徒アンケートをもとに「わかる授業の創造」「個に応じた授業の実施」に重点を置いているが、まだまだ未定着の部分も多く、課題とするところが多く見られる。また、家庭学習の確立にも学年によりばらつきがあり、習慣化させていく取組を充実させる必要が、1年生の取組は一定の評価ができる。自ら学習や進路に向かう姿勢が弱く、記述力やコミュニケーション力もまだまだ身につけられていない生徒が多い。	・生徒による「授業アンケート」を来年度も継続して実施し、その結果を本校の授業改善にいかしていきたい。平常授業の充実と確かな学力の定着とともに、これまで通り粘り強く、学習に遅れがちな生徒に対しての学力補充の取組も充実させていきたい。また、平常授業において、つけたい力を明確にした「言語活動」や思考力やコミュニケーション力、記述力が定着するよう、また、家庭学習の充実につながるような課題設定をしていきたい。
2	豊かな心	豊かな心の育成 豊かな人間関係の構築 豊かな学校生活の創造 ヒューマンタイムの推進	道德教育の推進、仲間を大切にする学級集団づくり(生徒・保護者アンケート調査)..... 学級における友人・教職員との豊かな関係(生徒・保護者アンケート調査)..... 学校行事・生徒会活動・部活動の充実(生徒・保護者アンケート調査)..... 人権問題学習、キャリア学習、参加体験型学習の推進(生徒・保護者アンケート調査)	悩みごとや進路などについて相談できる先生がいてと回答した生徒はそう多くはなく、これまで以上に信頼関係づくりをすすめていく必要があると思われる。総合学習や人権学習は、「自分はどう生きていくのか」考える機会となり、ある一定の成果も見られ、さらに充実するよう取り組んでいきたい。そして、学校祭を代表とする豊かな学校生活の創造には意欲的に取り組めており、今年度の取組を基盤としてさらに充実するよう、取組を進めていきたい。	学級経営を学び合える研修の場を提供し、クラスマネジメントシートを活用した学級集団づくりを推進していきたい。また、個が抱える課題についても、学年で共通理解をはかり、学年体制でも組んでいきたい。そして、生徒との信頼関係をより大きくするためにも、平素から心の通った指導を心がけ、寄り添ったり指導となるよう、教職員の質の向上を目指していきたい。
3	健やかな体	基本的生活習慣の確立 健やかな体の育成 体力の向上	早寝・早起き・朝ごはん等の指導(生徒アンケート調査の実施)..... 体育祭・球技大会等体育的行事の充実..... 部活動の充実	前期と同様に、基本的生活習慣の確立には高いものがあり、安定した家庭生活が見受けられる。反面、前日に学校の準備を行っていない生徒も結構見受けられ、前期と同じように学習習慣から見た基本的生活習慣はまだ課題が残る現実がある。学校行事や部活動(入部率は90%)には積極的に参加している生徒が多いので、それらの活動を通して健やかな心身の成長へとつなげていきたい。	来年度においても基本的生活習慣の確立には、日頃の規則正しい生活が必要であることを粘り強く知らせていきたい。学級通信を利用したり、保健たよりを活用したりしながら少しでも改善できるよう、はたらきかけたい。校行事には積極的に参加することで、人としての成長や仲間づくりへとつながり、当然のことながら心に残るものとなることを改めて指導していきたい。
4	学校独自の取組	小中一貫教育の推進 情報発信の充実 地域との協力関係の推進	HATTコンチネントプラン(小中合同研修会、小学生授業・部活動体験)の推進..... 学校HPの更新状況、PTAメール配信の充実..... 旭丘地生連の活動の活発化	小中一貫教育の推進は、定期的に4校校長会を開催・協議し、4校教職員への共通理解をはかれるよう取り組んできた。学校ホームページや学校だより、学年だより、学級たよりなどを通して、前年度に引き続き、本校の教育活動の発信に取り組んできた。旭丘地生連主催の「かがやく丘コンサート」は22回(22年)を数え、小中連携や地域諸団体との連携が図られる取組となっている。	小中一貫教育の推進に向けて、中学校側のリーダーシップが必要不可欠である。来年度も小中連携主任である教務主任会や4校校長会を充実させることで、より前進できる取組となるよう促していきたい。また、継続して取り組んできたホームページ等を利用した情報発信の充実も、学校への理解がより進んでいくよう取り組んでいきたい。旭丘地生連を基軸とした小学校や地域諸団体との連携もより確かな協力関係となるよう築いていきたい。

学校関係者評価 【 評価日 : 平成26年3月3日

評価者・組織 : 学校運営協議会 】

評価結果	改善に向けた支援策
生徒・保護者アンケート集計結果などからこれまで本校が取り組んできた様々な教育活動に対して、一定の評価を得ていると考えている。しかし、基本的生活習慣の定着や自ら学習・進路に向き合う姿勢が弱いなど、家庭の協力が必要不可欠な課題も多く、改善していかなければならない。 気持ちよく挨拶したり接してくれる生徒が多いという意見が多く、今後もこのような生徒を一人でも多く育ててほしいとの意見がある。	基本的生活習慣のさらなる定着や自ら学習・進路に力強く向き合うことのできる生徒の育成を目指して、家庭との連携をはかりながら学校でも機を逸さず指導していきたい。 特に、自ら学習や進路に向き合う姿勢を高めていくために、つけたい力を明確にした「言語活動」を重点化した日常の教科指導や豊かな心を育む学級指導、自分を見つめることのできるキャリア教育の充実などをはかっていきたい。

総括・次年度の課題

「社会を心豊かに、たくましく生き抜く生徒の育成」を学校教育目標に掲げ、全教職員一丸となってすべての教育活動に取り組んできた。しかし、まだまだ課題も多く、次年度は主観にとらわれず、各種データや様々な意見をもとに教育実践を行っていききたいと考えている。例えば、生徒理解や学級経営においては、クラスマネジメントシートを定期的に実施し、質の高い教育効果を探っていききたい。また、今年度、学校運営協議会を立ち上げたので、この組織を有効活用し学校運営の柱となるような信頼関係をさらに築いていきたい。